

人生今からでもおそくない

横浜市鶴見区

小林良子(南新保出身)

私は小学校を昭和二十八年に卒業後、東京の馬込に家族全員で引っ越してきました。

それ以来、中学、高校と東京生活に慣れてしまい、幼い頃の田舎生活をすっかり忘れてしまっておりましたが、平成元年に「小学校のクラス会を行います」との突然の連絡をいただき、忘れていた同級生とか、恩師のことがいつべんに思い出され、何が何でもすぐに飛んで行きたい感情になったことを今でもよく覚えています。

クラス会に参加してみると、自分が覚えていなくても皆さんが私のことを覚えていてくれたのが嬉しくて、小学生時代の子どもの頃にタイムスリップしたようでした。今では、年一回仲良し四人組と一泊旅行に妙高高原や高田公園やらと出かけ、親交を深めています。

最近六十歳を超えてから、今までできなかったサークルのスクウエアダンス、絵手紙とボケ防止に頑張っています。今は「二度目の青春時代」と参加している

皆さんは輝いておられます。ダンスも絵手紙も同じですが、若い頃と違って人一倍努力しないとついていけないことを思い知らされましたが、覚えたり、良い作品ができた時の満足感は何物にも替えがたい精神的な財産です。習い事についていくつになっても遅くないだと思おうようになりました。私たちの年齢だからこそ、今だからこそ続けられるんだと喜んでおります。月に何回もダンスパーティーがあり何百人もの人数で、皆一緒に手をつなぎ、コーラーさんの英語のコールで、老いも若きも一つの気持ちになつて踊れるなんて幸せです。

絵手紙も仲間とスケッチに出かけた

り、作品のやり取りにと新しい刺激を求めて仲良くやっております。これも健康でなければ出来ないこと、お互いに体に気をつけながら、励まし合いながら、少しでも永く続けられるよう、仲間とお茶したり、お話をしたりで毎日を通しております。



後列右：小林良子さん

— 2008. 11. 2 Enosima —

